

〈解答〉

- ① 1 イ  
2 イ  
3 ウ→ア→エ→イ (完答)  
4 カ  
5 〔例〕寄合を開き、村のおきてを定めるなど、自治的に運営された組織。

配点 各2点 10点満点

〈解説〉

- ① 1 吉野ヶ里遺跡は、弥生時代の環濠集落の遺跡である。この遺跡では、物見やぐらをかまえ、柵と深い濠に囲まれた大きな集落が発掘され、矢がささったあとが残る人骨も発見されている。アは奈良時代、ウは鎌倉時代、エは旧石器時代の様子である。
- 2 岩手県の平泉に本拠をおいた奥州藤原氏は、清衡・基衡・秀衡の三代にわたって東北地方で権力をふるった。大量にとれた砂金や良馬などの交易で栄え、平泉には北や南の各地から文物がもたらされた。また、阿弥陀仏にすがって死後に極楽浄土へ生まれ変わることを願う浄土信仰から、中尊寺金色堂を建立した。
- 3 ウは797年、アは1016年、エは1086年、イは1159年のできごとである。
- 4 鎌倉幕府が滅びた後、建武の新政と呼ばれる、後醍醐天皇を中心とする政治が始められたが、これまでの武士のしきたりを無視し、天皇に権力を集めて新しい政策を次々に打ち出したため、武士や農民だけでなく、天皇に近い立場にある公家からも批判を浴びた。そこで、足利尊氏が、武家政権の復活をめざして兵をあげると、新政は2年ほどでくずれ、1338年、足利尊氏は新しい天皇を即位させ（北朝）、吉野（奈良県）に逃れた後醍醐天皇も自分の正統性を主張したため（南朝）、全国の武士は二つの勢力に分かれ、60年近く戦いが続いた。その後、3代将軍足利義満が、1392年、南北朝を統一して内乱を終らせた。
- 5 惣〔惣村〕は、南北朝時代から室町時代に名主を中心につくられた農村の自治のしくみで、代表者を選び、寄合を開いてもめごとなどを解決したり、独自に村のおきてをつくったりした。